



観光振興による地域創生に向けた人材育成事業

大学・地域・企業 つながり通信

広島市立大学COC+ニュースレター

vol.007
2018.01

広島大学 / 広島経済大学 / 広島工業大学
広島修道大学 / 安田女子大学
比治山大学（協力校） / 広島市立大学



観光をテーマに、大学合同の研究・活動発表会を初めて開催

宮島で12月16日・17日
7大学の学生・教員が学習交流

「大学連携による学生の観光に関する研究・活動発表会」を、昨年の12月16日と17日の2日間、廿日市市宮島にある広島経済大学セミナーハウス成風館を会場に開催しました。

広島市立大学が呼びかけを行い、COC+に参加する5大学と比治山大学（協力校）の7大学が合同して、COC+の協働研究事業として実施しました。観光に関連する学生の研究や活動についての広島地域での初めての大学間交流事業となりました。参加した学生は65名、教員は23名。

発表されたテーマは14。それぞれのテーマ設定により、地域への関わり方や分析や考察の方法に特徴があり、プレゼンテーションも多彩に行われました。

観光へのアプローチの多様性に 刺激を受ける

普段は学内や学会での発表に限られる学生にとって、専門分野の異なる研究・活動の内容や提案にふれ、地域への取り組み方について、意識を新たにする機会となりました。

実施後のアンケートには「大学や学



部、研究分野が違う中で、様々な観点からの観光へのアプローチを学ぶことができた」「学生同士の意見交換ができ、とても刺激を受けた」との感想が見られました。

また、学生を指導する教員にとっても、情報を共有し交流を深める場となりました。

この事業は、来年度に向けた継続を検討し、学生の地域観光への学習・研究意欲を高め、地域を志向するマインドやネットワークの醸成を図ります。



14の発表テーマ

【宮島の観光】

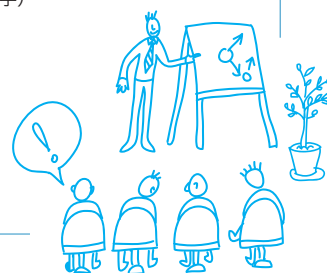
01. 宮島の魅力を発信したいプロジェクト (広島経済大学)
02. 宮島双六観光マップ製作プロジェクト (広島市立大学)
03. 宮島を最大限に楽しめるルートの提案 (広島工業大学)
04. 宮島の町家通りにおける無電柱化の方策とその効果に関する研究 (広島工業大学)
05. 宮島の森林植生の現状把握のための基礎研究 (広島大学)

【多様な地域資源を活用した観光】

06. 「ここ廿」がプロデュース!! さとやまを応援するラジオ番組制作 (比治山大学)
07. 「トワイライト エクスプレス瑞風」を活かした瀬戸内の魅力発信 (広島市立大学)
08. 広島は世界遺産だけじゃない～広島を滞在型観光地に～ (安田女子大学)
09. 地域資源を活用した「道の駅」連携バスツアーの企画考案 (比治山大学)
10. 島における観光：①島の観光イメージ・②観光と動物 (広島大学)

【サイクリングと海外交流資源を活用した観光】

11. とびしま海道の観光とサイクリング (広島修道大学)
12. しまなみサイクリングGPSロガー解析 (広島市立大学)
13. 海外移住のルーツを巡ろうTOUR (安田女子大学)
14. 朝鮮通信使を巡る旅in瀬戸内 (広島経済大学)



高校生の地域内進学を促進

COC+サテライト講座を柳井市で実施

COC+の目的は人の地方への集積(地元就職率の向上)にあります。地方自治体の状況としても、若い世代の人口流出を防ぎ、地元への定着をいかに図るかが切実な課題となっています。

その対策の一つとして、高校生の地元大学への関心を高めるための事業を行い、地域内への進学の道を示すことが、ひいては

地域内での就職につながるものとして、期待されています。

こうした背景や要請を受けて、COC+事業の一環として、事業協働地域在住の高校生の地域内進学を促進することを目的として、今年度初めての試みとして、柳井市においてサテライト講座を実施しました。

講座は、10月14日、21日、28日の3

日間、広島市立大学の3名の教員が、柳井広域圏1市4町の7つの高校の生徒を対象に実施しました(参加者は32人)。同時に、広島地域の大学の紹介を行い、進学を呼びかけました。

「しなやかな地域づくり」を考える COC+フォーラム2018

関係人口をいかにつくるか

1月29日に開催

人口が減少していく状況において、地域の元気をどのように維持していくか。理想として、定住や移住の人口を増やすことが第一義的な目標とされています。一方で、全体の人口が減少していく枠の中で、人口の取込み合戦は、ゼロサムゲームの側面も否定できません。

COC+は、若い人々がこの地域について学習し、関心を深め、自らの将来的な活動の場として意識する(定着する)ことを目指しています。そのためには、この地域全体がもっと繋がりや関係性を強めることで、若者の地域への思いや行動をばば広く受け止める仕組みづくりが必要です。人と地域を結びつけるチャンネル、それは定住や交流だけではなく、複数の地域に関係を持ちながら、活動の場をマルチに展開するための柔軟な受け皿づくりとも言えるでしょう。

第3回目となるCOC+フォーラム。今回は「関係づくり」をキーワードに、松江市を拠点に活躍されているローカルジャーナリスト、田中輝美さんをお招きして、これからの地域づくりを考えます。併せて、大学と地域との新しい「関係」をつむぐCOC+事業が進めている、学生のアートプロジェクトの活動や、地域の観光データの集積と活用についてご報告します。ぜひ、ご参加ください。



地(知)の拠点

広島・山口
Area25

広島広域都市圏と尾道市の25市町 地域・若者・大学・企業

広島市立大学 COC+フォーラム2018

しなやかな地域づくり

若者を惹きつける地域のあり方とは。人と地域との新しい関係づくりを考える。

平成30年 **1月29日** (月) 15:00~17:00

● 広島市総合福祉センター・ホール

入場無料
定員 150名
先着順



基調講演
関係人口をつくる
定住でも交流でもないローカルイノベーション

講師
ローカルジャーナリスト **田中輝美氏**

● 田中輝美(たなか・てるみ)さん
島根県浜田市出身。大阪大学文学部卒業後、山陰中央新報社に入社し、ふるさとで働く喜びに目覚める。報道記者として、政治、医療、教育、地域づくり、定住-UI ターンなど幅広い分野を担当。琉球新報社との合同企画「環(めぐり)の海-竹島と尖閣」で2013年日本新聞協会賞受賞。2014年秋、同社を退職して独立。島根を拠点に活動している。著書に『関係人口をつくる-定住でも交流でもないローカルイノベーション』(木楽舎)『ローカル鉄道という希望-新しい地域再生、はじまる』(河出書房新社、第42回交関図書賞奨励賞)『地域ではたらく「風の人」という新しい選択』(ハーベスト出版、第29回地方出版文化功労賞)など。2017年、大阪大学大学院人間科学研究科修士課程修了。一般社団法人日本ジャーナリスト教育センター(JOEU)の運営委員も務める。

事業報告1

COC+アートプロジェクト 2016-2017
報告/広島市立大学社会連携センター
三上 賢治 特任助教



事業報告2

観光関連データベースの構築と活用について
報告/広島市立大学社会連携センター
吉岡 研一 特任准教授





3つのひかり 未来をつくる
広島市立大学
Hiroshima City University

● 問合せ
広島市立大学 社会連携センター 〒731-3194
広島市安佐南区大塚東3-4-1
☎082-830-1842
FAX 082-830-1555 mail : shakai@office.hiroshima-cu.ac.jp



会場：柳井市文化福祉会館

- 第1回 10月14日(出) 情報科学部 石光俊介 教授 「情報科学とサウンドデザイン」
- 第2回 10月21日(出) 国際学部 山根史博 准教授 「なぜ万人が統計学を知るべきなのか？」
- 第3回 10月28日(出) 芸術学部 伊東敏光 教授 「芸術に何が出来るの?そこから芸術による新しい街づくりを考えよう！」

広島発の新たなモノづくりを!

マツダ・広島市立大学芸術学部 共創ゼミ

学生と企業が真剣勝負! 自分を超越する「予想外」に出会う

マツダ(株)と広島市立大学芸術学部が協働して、広島が世界に誇れるモノづくりの拠点となることを目指し、今年度から「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」(寄附講座)を開講しました。これは、本学ならではの取り組みといえます。

今年度のゼミ最終日となった昨年9月8日、本学芸術資料館において、共創ゼミで学

んだ学生12名が、その成果である作品についてプレゼンテーションを行い、アドバイザーボードである前田客員教授(マツダ(株)常務執行役員)から評価・講評を受けました。

学生たちは、普段の授業に加え、業界の最前線で活躍するマツダの方々から刺激を受けました。



開設期間:平成29年度~31年度(延長予定)

対象:芸術学部2年次以上の学部生、芸術学研究科の大学院生等。定員10名~15名

内容:マツダ(株)からの派遣講師と芸術学部教員の指導のもとで演習を行う。

代表教員:広島市立大学芸術学部 吉田幸弘教授

マツダ(株)デザイン本部クリエイティブデザインエキスパート 高橋耕介氏

担当教員:広島市立大学芸術学部 大塚智嗣准教授 / 同 野田睦美准教授 / 同 藤江竜太郎講師

アドバイザーボード※:マツダ(株)常務執行役員 前田育男氏 ※作品審査やゼミ活動の助言を行う。

事業の概要

地(知)の拠点



広島市立大学COC+地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 地域に定着し貢献する人材の育成

育成を目指す人材像

- 地域の特性や課題を理解している
- 総合的視野から企画できる
- ネットワークを形成、調整できる
- 専門性を効果的に発揮できる



対象地域は、広島広域都市圏の市町と尾道市の25自治体

広島市立大学の人材育成のためのカリキュラム

広島を「知る」「感じる」「問う」「挑戦する」

- 1 地域志向の教育カリキュラムを実施**
広島観光学、地域再生論入門、地域課題演習など多彩に開講
- 2 観光関連データベースの構築**
集積した観光情報を教育研究や観光の振興に活用
- 3 参加大学等が協働し教育研究事業を実施**
学生による各地でのアートプロジェクトや地域活動など
- 4 インターシップの強化**
地元企業の魅力を知る機会を増やす取組など

事業テーマ=地域の観光振興・活性化

学生の地域内就職率の向上を目指す

事業協働機関等

(大学等9校) 広島市立大学、広島大学、尾道市立大学、広島経済大学、広島工業大学、広島国際大学、広島修道大学、安田女子大学、広島商船高等専門学校
(自治体25市町) 広島市、呉市、竹原市、三原市、尾道市、大竹市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、江田島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸太田町、北広島町、大崎上島町、世羅町、岩国市、柳井市、周防大島町、和木町、上関町、田布施町、平生町
(経済団体・企業・NPO法人32機関) 中国経済連合会、広島商工会議所、広島経済同友会、広島県経営者協会
オタフクソース(株)、(一社)尾道観光協会、呉信用金庫、(株)グリーンヒルホテル尾道、(公財)コミュニティ未来創造基金ひろしま、山陽工業(株)尾道国際ホテル、(一社)しまなみジャパン、(株)中国新聞社、西中国山地観光施設等連絡協議会、日工(株)、(株)ハイエレコン、(公財)広島観光コンベンションビューロー、(株)広島銀行、広島市信用組合、(公財)広島市文化財団、広島信用金庫、広島電鉄(株)、(株)広島東洋カープ、広島日野自動車(株)、(公財)広島平和文化センター、(株)福屋、(株)プリンスホテル グランドプリンスホテル広島、(株)ホテルグランヴィア広島、(株)ホライズン・ホテルズ ANAクラウンプラザホテル広島、マツダ(株)、(株)もみじ銀行、(株)山本屋、特定非営利活動法人キャリアプロジェクト広島、特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター (企業等・NPO:五十音順)
(事業の一部を協力する大学) 比治山大学

COC+とは?

COCはセンター・オブ・コミュニティの略称。「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」は、地方への人の集積を目的に、大学・自治体・企業等が協働して、地域に定住し、貢献していく人材を育成する取組への文部科学省の補助事業。

【編集発行】広島市立大学社会連携センター
〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
TEL 082-830-1542 FAX 082-830-1555
<http://www.cocplus-hiroshima-cu.com/>

